神奈川県立横浜ひなたやま支援学校　学校だより

よこひな通信



11月号　令和８年10月23日発行

校長　見目　茂則

～ 秋らしさを感じて ～

今年は久しぶりに、秋らしい清々しさを感じている年では、と思っています。最近は気温の高い日が10月になっても続き、年々体の負担感が増えているなと感じていました。先月は、例年にないほどの連日の降雨により、県内でも大きな災害が発生しています。７月の熊本地震を含め、改めて日本が災害列島だと言われる理由を再認識しました。近年、これほど陽の光、青空が欲しいと思ったことはありませんでした。この度、被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。

さて、次期学習指導要領の実施に向けての審議のまとめが８月に公表されました。「多様な子供たちの深い学びを確かなものに」という言葉が、全体像の共通理念を示しています。一人ひとりが抱えている困難や課題を持つ127名の生徒が、日常の教育活動を通して、確実に行動様式や考え方を昇華させていく。毎日の小さな繰り返し、積み重ねを地道に続けていくことで、年輪や地層のようにしっかりと目に見える痕跡として刻まれていく。改めて「深い学び」という言葉のイメージを、本校に当てはめて私流に考えてみました。共通理念を私たち教職員にも同様に置き換えてみますと、学びを毎日、生涯続けていくことが心身ともに人間性を豊かにし、深みのある人間として、確かな成長を続けていくものと思っています。これからの時代はＡＩの存在が前提となりますが、最終判断は人間が行い、そのために、質問をする、あれこれ考える、生徒の皆さんはそうした行動を取りながら、社会で生き抜いてほしいと願っています。

多くのさまざまな教育活動が用意された２学期も順調に進んでまいりました。その中でもメイン行事とも言えそうな、よこひな祭が来月に控えています。今回は、オフィスサービスユニットと交流のある、瀬谷さくら小学校特別支援学級の児童の皆さんを招待しています。また、10/2(金)には、フードサービスユニットと交流のある、大和南高校の文化祭を３年生が見学してきました。本校は、分教室を持たない、高等部のみの学校であるため、交流を始めるためには、本校から主体的に、積極的に企画していく必要があります。14年目を迎えている歴史の浅い学校ですが、前身の旧日向山小学校からの、自治会主催の夏祭り、最近ではガパオ祭り参加など、地域との濃いつながりも大切にしていきたいと思います。また、今学期は、介護等体験や教育実習により、多くの学生の方が本校での教育活動に生徒と一緒に取組んでいます。毎年恒例の風景なのですが、40年ほど前の自分自身の教育実習の記憶を再現しながら、実習生を見ています。当時のことは、一場面ですが、鮮明な画像として脳裏にしっかり焼き付いています。ほとんどの方は母校で教育実習を行うと思いますが、かつてお世話になった先生がいる中での、恥ずかしい限りの授業であったかなと思い返されます。大学卒業後は新採用教員として教壇に立ちましたが、経験年数に関係なく生徒からは、当然先生と呼ばれます。若気の至りも多く、周囲の先輩先生方の忍耐と叱咤があったおかげで、今もこうして教員を続けていられます、というのが本音です。教員人生を振り返りながら体験生や実習生を見ていますが、ひとりでも多くの学生に、いずれは教壇に立ってほしいなと願っています。